

令和7年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きていく力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

2. 中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針に、「常に向上をめざし努力すること」、「人を思いやり物にも感謝すること」、「ものごとに素直に感動する心を持つこと」の三つを目標として掲げている。これらのことを基軸として、年度当初に示す学校経営方針に沿って各教職員が取り組んでいる。令和8年度からコース再編を行うとともに、入学者から順次学校隔週五日制を導入し、入学定員の確保を行う。

(1) 学校運営

- ①生徒の実態（校種・各コース）に柔軟に対応し、個性尊重を念頭に、達成感や充実感が感じられる教科指導・生徒指導・部活動指導に取り組む。
- ②学校の安全対策と配信システム（Classi等）を機能的に活用し、保護者との連携を図る。
- ③ICT教育推進部を中心に各分掌と連携をとり、業務内容を精査し効率化を図り、コスト削減に努める。
ICT教育のさらなる充実（学習アプリの活用）、と従来の授業形態の利点を融合させた効果的な教育活動の推進する。
- ④美術コースを高校1年生入学時より募集するとともに、全コースを通じて、個別最適な学習環境の充実を図り、多様なニーズに応えられる学校体制を構築する。
- ⑤生徒募集定員の確保に努める。
 - ・令和8年度募集の方針として、「高校入試の授業見学及び授業体験授業」（中学入試は既に実施）「高校入試合格の目安の一部変更」「中学校講習は知的好奇心を高める講習に再編（探究的な内容）」「募集行事の見直し（生徒の姿が見える内容）」「中学校教員を対象とした学校説明会」等を行う。令和8年度の美術コースの入学時より募集を視野に中学生対象美術教室の開催など募集活動を行う。
 - ・令和8年度の改革に向けて、外部連携委員会を設置し個別最適な学習環境を整えるとともに、「コースの特色、教育内容、セールスポイント」「カリキュラム、講習」「入試要項」等を検討し、学園本部と連携を密にし令和8年度から入学者数を増やす募集行事を充実させる。

⑥入学した生徒は卒業まで(転退学者を出さない)

(2) 教育実践の充実

①教科指導

- ・高校の観点別評価方法、定期考査の検討、改善。生徒・保護者に納得・理解できる説明の徹底
- ・令和7年度に、8時間目講習時間を一部削減し、令和8年度以降の個別最適化の推進に向けた取り組みを進める。
- ・すべての教員が自分の教科指導、授業の進め方を再点検し、生徒の実態に合わせた教科指導の改善を行う。
- ・令和7年度から英会話授業を見直し、英語による探究活動に移行し、生徒がグローバルな視点で物事を考える能力を高める。

②生徒支援

- ・教員の校則に対する意識改革と生徒会を中心とした自治活動を活性化する。(合理的な説明、生徒の意見等を聴く機会の設定など)
- ・SNSの人権侵害の防止の観点から、生徒観察を丁寧に、変化を見逃さない学級経営を徹底する。
- ・令和7年度より臨床心理士を配置し、いじめなどの相談体制を充実し、いじめの未然防止と早期解決に努める。
- ・朝の挨拶運動を生徒支援部と校長が率先して行い、元気な挨拶、充実感・達成感のあるクラブ活動、笑顔のはじける学校を地域に発信する。

③進路指導

- ・生徒の実態に合った講習の再検討(講習内容、講習期間、コマ数)と対費用効果の検証
- ・季節講習を午前中は必修、午後は希望制とし、生徒の選択の幅を広げる。
- ・指定校推薦を受けやすいよう、評価における内規を見直し、生徒一人ひとりの希望に合った進路実現がこれまで以上に叶う体制を構築する。
- ・一般入試に加えて、総合型選抜や指定校推薦を活用し、各生徒の能力や特性、個性に基づいた進路指導を充実する。

④ICT教育の推進

- ・学習アプリの活用。ICT教育の急速な進歩に乗り遅れない情報収集とスキル向上に努める。
- ・統合システムの機能的運用と業務の効率化を図る取り組み
- ・情報モラル教育の徹底(外部講師による講演、定期的なHR指導)

⑤人権教育

- ・人権教育LHRの充実による人権意識(イジメ事象の早期対応)の向上と道徳・宗教情操教育の充実
- ・セクハラ、パワハラなどハラスメントの根絶
- ・いじめ不登校対策委員会を積極的に開催し、学校全体で課題を共有するとともに、問題の早期解決に向けて学校一丸となって取り組む。

⑥情操教育

- ・人間としての生き方や在り方を考える宗教・道徳教育の研究・実践
- ・宗教の時間を通して心豊かな人間の育成

⑦家庭との連携

- ・ホームページ・インスタグラムの充実、学校通信・校長室だより・中学通信等の発行

- ・保護者ニーズの把握と保護者要望には丁寧・適切な対応（学年部長、管理職へのハウレンソウの徹底）

⑧広報・募集活動

- ・費用対効果を徹底的に検証し、効果の薄い募集活動を廃止するとともに、効果的な募集活動を充実させる。
- ・ホームページ・Instagramの発信頻度の増加と内容充実。学校の魅力や特色の見せ方の工夫・改善
- ・教職員一丸となった効果的な広報活動

(3) 意識改革と資質向上

- ・「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上（管理職との面談、助言・指導・支援）
- ・教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有と意見交換
- ・「教職員の設定目標自己診断」を通して、管理職とのヒアリングを密にし、参画意識の醸成、企画力の育成

(4) 学校行事

- ・学校行事を精選し、時代に対応し学校行事を再構築する。令和7年度から体育大会から体育祭へ移行する。
- ・生徒会の自主活動の推進。部活動の活性化。外部へのクラブ活動の発信（吹奏楽、ダンス部など）

【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>(1) 学校経営</p> <p>令和6年度は、「生徒が学校生活に意義を見出し、誇りをもった行動ができるよう指導する」いわゆる愛校心の醸成について、十分ではないという教職員の自己評価結果であったが、令和7年度には、大きく改善することができた。これは、学校行事を生徒会主体での実施を目標とし、とりわけ体育大会を体育祭としてみなおしたことや生徒の意向を踏まえて、同好会を積極的に設立(サッカー同好会、軽音楽同好会)したことが大きな要因と考えられる。</p> <p>また、「教職員間の連携」についても、令和6年度から大幅に改善し、90%以上の教職員が、学校の様々な課題を共有し、連携しながら取り組むことができたとしている。これは、8月のオープンスクールなど、募集行事成功に向けて一丸となって取り組めたことによるものと思われる。</p> <p>(2) 教科指導</p> <p>100%に近い教員は、学習指導要領に則り、計画的・系統的に進められたと評価している。</p> <p>(3) 生徒支援</p> <p>生徒指導から生徒支援に改めたことで、カウンセリングマインドに基づいた指導や支援を推進することができた。ただし、早い段階で家庭との連携を行い、学校だけでなく保護者と情報や思いを共有することは、更に充実した取組が必要であると思われるケースが見られた。</p> <p>(4) 進路指導</p> <p>早い段階から計画的・系統的な進路指導を実施することは概ね良好であるが、全ての生徒に対して一人ひとりの個性を大切に、将来を見据えた進路指導の実現について、指定校推薦の活用など多様な入試制度といった時代の変化を見据えた取組の充実が求められる。</p> <p>(5) 人権教育</p> <p>様々な人権課題に基づく人権教育が十分推進するために、人権意識向上を目的とした講演会や研修会への参加が十分ではなく、更なる研鑽を積む必要があると考える。</p> <p>(6) 資質向上</p> <p>人権教育同様、研修への参加が不十分であり、校内研修を</p>	<p>全般的に課題が改善され、校長の経営方針を理解し学校が良くなっていることに期待できるという評価ができる。また、生徒の状況を見ても、「自走力」の重要性を理解し始めており、生徒会を中心に、学校を盛り上げようとしていることが「愛校心」の醸成につながっているのではないかと考える。</p> <p>令和7年度から取り組んでいるグローバルコンピテンスプログラムは、オールイングリッシュの授業であり、英語の苦手な生徒にとっては、話し合いに参加しにくい部分があると聞いているという指摘がある。部活動や同好会活動は概ね活性化しており、軽音楽同好会が文化祭で生き生きと発表するなど、これまでにない活気を感じた。</p> <p>そういった意見の半面、自主的な学習習慣を促す取組や令和8年度からの隔週5日制の導入などについて、自分で取組むことが苦手な生徒にとっては、学習量が減ってしまう恐れがあるので、ある程度、強制的に学習させる場も必要ではないかという意見もある。</p> <p>帰宅後はスマートフォンやゲームに没頭する子どもも少なくないことから、できるだけ学校にいる時間を長くしてほしいという要望もある。</p> <p>進路については、これまで以上に年内入試の活用を希望する生徒や保護者が増えていることから、指定校推薦等の活用には大きな関心がある。</p> <p>いじめ問題が重大な社会問題となっている昨今、生徒一人ひとりの様子を十分に把握し、早い段階で解決できるような取組を続けていく必要について、指摘がある。</p> <p>来年度から高校1年生で募集する美術コースについては、これまでのレベルの高い美術教育に大いに期待しているという意見があった。</p> <p>金光八尾の教員が、日々素晴らしい取組を熱心に続けていることを在校生の保護者として、新たに入学した生徒の保護者に伝えていく場があればいいという意見もあった。</p>

<p>実施した後、互いに講評し合い、資質向上につなげる場面が少ない。</p> <p>(7) 特別活動・自主活動</p> <p>生徒主体の取り組みになりつつある。</p>	
--	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
教育の推進	<p><建学の精神></p> <p>ア、生徒一人ひとりの多様性を認め、持続可能で安全安心な教育環境の構築</p> <p>イ、個性尊重の精神に基づいた生徒会活動をはじめとする、生徒自らが誇れる学校づくりへの参画</p>	<p>ア、いじめ対応の共通認識を図るため、いじめ対策組織を充実し、いじめの未然防止と早期発見、早期解決に向けて充実する。</p> <p>イ、生徒会活動を活性化させ、本年度は体育大会から体育祭に変え、生徒が運営する学校行事にしていく。</p>	<p>ア、「生徒の学校生活アンケート」で、生徒の安心感の検証。</p> <p>イ、生徒会活動の充実に対する生徒会役員からのヒアリング</p>	<p>ア、「生徒の学校生活アンケート」で、生徒の安心感は概ね良好であるが、いじめの定義等、法に基づいた理解を深める教員研修の充実が課題である。</p> <p>イ、生徒会活動の充実に対する生徒会役員からのヒアリングやアンケートを実施し、生徒主体の体育祭が、非常に楽しかったという評価を得ている。</p>
	<p><確かな学力></p> <p>ア、対話的、協働的な学びを取り入れた授業改革</p> <p>イ、主体的に取り組む態度の評価方法を確立</p>	<p>ア、生徒の興味関心を高め、みずから学習する態度を育成する。</p> <p>イ、生徒の良い面を積極的に評価し、評価を教員自身がPDC Aサイクルにより、授業力の向上を図る。</p>	<p>ア、教員研修を充実させるとともに、教員の自己目標の達成度合いと面談</p> <p>イ、各テスト、評価を検証し、生徒の良い部分が評価できているか検証</p>	<p>ア、生徒の主体的な態度の育成については、評価方法を含め、十分理解が進んでいるとは言えない。</p> <p>イ、国が定める3観点評価については、特に主体的な態度の評価基準に苦慮している。</p>
	<p>ウ、中学において、探究学習を取り入れ、課題発見、解決力の育成を図る。</p> <p>エ、グローバル教育の充実</p>	<p>ウ、中学全学年に探究学習を導入し、生徒の課題解決能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。</p> <p>エ、英語力の向上とともに、グローバルな視点で考察できる納涼の育成を図る。</p>	<p>ウ、文化祭や募集行事に発表の機会を設け、保護者や外部の方の評価の検証</p> <p>エ、外部（ISA）と連携し、英語によるディスカッションが充実しているか、英語検定の合格率</p>	<p>ウ、積極的に発表の機会を設け、生徒が自ら話し合える力の育成が進んでいる。</p> <p>エ、グローバルコンピテンスプログラムを実施し、英会話だけでなく、異文化理解が進みつつある。</p>
	<p><主体的な学び></p> <p>ア、部活動の充実</p>	<p>ア、放課後の生徒の自主的な参加を促し、様々な力や経験を養う。</p>	<p>ア、各部活動への参加率と各部活動におけるクラブ体験の検証</p>	<p>ア、これまで十分でなかった高校の参加率も向上してきている。</p>

	<p>イ、放課後自主活動</p> <p><社会連携></p> <p>ア、八尾市行政との連携</p> <p>イ、同窓会組織の活性化</p> <p>ウ、高大連携</p> <p><進路保障></p> <p>ア、学校推薦型選抜、総合型選抜を活用し、すべての生徒が希望する進路選択の実現</p>	<p>イ、放課後の自主活動を生徒が主体となって取り組み、学習への興味・関心を高める。</p> <p>ア、こども家庭庁のいじめ対応アプリケーションを全国初導入し、行政と連携した安全安心の推進を図る。</p> <p>イ、創立40周年事業の一環として同窓会を開催し、ステークホルダーとしての連携を図る。</p> <p>ウ、関西福祉大学と連携し、看護系大学進学する生徒への興味関心を高める。</p> <p>ア、定期考査の難易度や評価方法を各コース毎に合ったものとし、生徒の良さを最大限に評価する。</p>	<p>イ、放課後自主活動への参加人数や取り組みの検証</p> <p>ア、八尾市「こども・いじめなんでも相談課」との連携により、相談件数や相談内容、対応について検証</p> <p>イ、同窓会との連携を図り、卒業生の協力の下、キャリア教育の充実に関する検証</p> <p>ウ、高大連携によるZOOMによる効果検証、大学訪問時の生徒へのアンケート</p> <p>ア、定期考査の平均点や評定の人数分布</p>	<p>イ、中学中心の放課後自主活動が高校にも広がっており、参加者も多い。また、中高合同での取組も行っている。</p> <p>ア、八尾市担当課との連携が進んでおり、高校への導入も検討している。</p> <p>イ、40周年記念同窓会も盛況であった。同窓会の協力も得ながら、学校の活性化を進めていきたい。</p> <p>ウ、看護系進学者の希望者が少なく、大学訪問がかなわなかった。</p> <p>ア、定期考査の難易度を生徒の実態を把握しながら、適切なものにしていく必要がある。</p>
<p>募</p> <p>集</p> <p>戦</p> <p>略</p>	<p>ア、生徒が選択できる学習環境の徹底と多彩な学校行事、安全安心な学校を徹底的に周知する。</p> <p>イ、開かれた募集行事</p> <p>ウ、中学校教員に対する直接的なアプローチ</p>	<p>ア、学習内容や学習方法と部活動など、幅拾い選択可能な学校改革を強く発信</p> <p>イ、学校説明会だけでなく、本校の授業や生徒の良さを参加者に直接見てもらえる機会を増やす。また、参加者が授業や部活動へ参加できる行事を増やす。</p> <p>ウ、中学校教員対象の学校説明会や見学会の機会を設ける。</p>	<p>ア、各募集行事の参加者数や参加者のアンケート</p> <p>イ、各募集行事の参加者数や参加者のアンケート ※アンケート内容やアンケートへの回答をその都度、検証し、スピード感をもって次回行事の改善に役立てる。</p> <p>ウ、学校訪問の回数を増やし、本校に対する教員や生徒の印象を正確に把握</p>	<p>ア、ラインやメタ広告による広報活動を取り入れ、エルメッセージを活用して、リアルタイムで申込者の把握に努めた。</p> <p>イ、アウトソーシングも活用しながら、各募集行事の成果と課題を分析し、次回行事に反映するよう努めている。</p> <p>ウ、中学校教員や塾対象の説明会を実施した。</p>

<p style="text-align: center;">人 事</p>	<p>ア、働き方改革の推進</p> <p>イ、学級数、生徒数に応じた人事計画</p>	<p>ア、出退勤システムにより、勤務時間管理を徹底する。</p> <p>イ、早期の段階で来年度の学級数、生徒数を予測し、適正な人事計画を立てる。</p>	<p>ア、出退勤システムを活用して毎月の残業時間の把握</p> <p>イ、来年度の授業持ちコマ数、人件費</p>	<p>ア、適切に残業時間の把握ができています。</p> <p>イ、学級数を把握するとともに、講習を除いた授業時間で適切な持ちコマとなるよう、早い段階から適切な教職員定数になるよう努めた。</p>
--	--	--	--	---

